

日中経済交流研究会新聞 日中経済交流研究会 2023年12月例会

台湾視察報告・インド視察報告

～訪中委員会・プラスワン委員会の視察(下見)～

開催日:12月11日(月)／参加者:23名

報告者:フセハツ工業(株) 吉村 篤
(株)電研社 野村 明宏
(株)スリート 吉川 徹
(株)エーディエフ 島本 敏



吉村 篤



野村 明宏



吉川 徹



島本 敏

吉村例会委員長による台湾訪問報告

現状、中国訪問にはビザ取得や指紋登録が必要であり、訪中することは現実的ではないと判断しました。そこでビザ申請の必要がない台湾を訪問することを訪中委員会で決定しました。訪台は2024年3月3日～3月6日を予定(最小視察人数15名)しており、今回はその下見で訪問しました。台湾はIOT化が進んでおり、半導体企業で世界No.1のTSMC(台湾積体回路製造股份有限公司:新竹市)や台湾で鉄工所(旋盤・フライス加工ほか)をされている日系会社を見学しました。

野村副会長、吉川さん、島本さんのインド訪問報告

10月に野村副会長、島本プラスワン委員長、プラスワン委員の吉川さんの3人で南インドを訪問しました。訪問先は、JETRO(チェンナイ)、ソナ大学、コーヤンブットゥール(沐浴体験)ほかです。

野村さんからはJETRO訪問の報告がありました。インド南端にあるタミル・ナードゥ州(以下、TN州)は、人口7,214万人(州都:チェンナイ)、宗教分布は、ヒンドゥー教88%、キリスト教6%、ムスリム教6%です。インドの州ではマハラシュトラ州(州都:ムンバイ)に次ぐGDPがNo.2の州で、平均年収は47万円です。ただし、職種によって給与は大きく異なり、作業員3.9万円/月、技術者7.5万円/月、マネジメント18万円/月程度ですが、マハラシュトラ州の平均給与はさらに高くなります。また、産業別では、TN州の50%が製造業で、その内訳は自動車41%、機械31%、電気電子12%です。製造業以外は保険コンサルタント業が24%、物流関連が10%と続いています。インドは多民族国家ですが、皆例外なく、コストに厳しく、日本とは商習慣が大きく異なり、事業はなかなかうまくいかないとのことです。会計・税務も複雑で州によって異なります。日本系企業の成功例は少ないですが、日本企業は製造に特化して、販売は現地(インド)に任せることで、うまくいっている例(ダイキンほか)はあります。インドの大きな問題点は、経済の発展よりも人口の増加が上回っていて仕事がないということです。また、東南アジア諸国に見られるような日本の影響は、インドではほぼないとのことです。

次に、吉川さんからソナ大学について報告がありました。日本の大学といえば、研究(論文)というイメージが強いですが、イ

ンドの大学は、日本でいう専門学校のイメージです。研究というよりは実務を重んじています。吉川さんはソナ大学の講師もしており、年2～3回はソナ大学に来ています。インド人の学生は、よくしゃべり、積極的な方が多いとのこと。

最後に、島本さんからコーヤンブットゥールでのヨガや沐浴体験の報告がありました。コーヤンブットゥールは、TN州でチェンナイに次ぐNo.2の都市で、繊維やIT産業(ソフトウェア、ITアウトソーシング)が盛んで「南インドのマンチェスター」と呼ばれています。観光したペルール・パッティースワラル寺院は、コーヤンブットゥール市内ノイヤル川近くのヒンドゥー教の寺院です。ヒンドゥー教で破壊と再生を司る神とされている「シヴァ神」を祭っています。島本さんは、ヨガや沐浴体験で「静か、厳かで、瞑想ができた」との感想でした。

南インドのホテル料金の話がありましたので、記載します。1泊目:1.5万円程度(チェンナイ)、2泊目:3千円(コーヤンブットゥール)、3泊目:高額(コーヤンブットゥール)。ホテルは、綺麗な一流ホテルから、汚くお湯も出ないような設備に不具合のあるホテルまでいろいろあります。

感想

台湾については、私自身、観光や仕事で5～10回行ったことがあり、直近では5月に商工会議所の視察旅行でTSMCの見学施設を訪問しています。台湾にある世界最大の半導体受託製造企業台で「台湾のシリコンバレー」とも呼ばれ、IT産業では世界的に有名です。近年、地政学的にも中国と台湾の話題が尽きなく、2024年1月の大統領選挙も注目をあびています。これからの中台関係が気になるところです。

また、インドについては、当社でインド人社員を2名雇用している程度で全くインドに関する知見はありません。先日、インドの製鉄事業について聞く機会がありましたが、粗鋼生産量が1.3億トン(大半は建設用で内需。2030年には3億トンの見込み)で過去の日本の最大粗鋼生産量よりも多いということを知り驚きました。

世界は自分が知らないだけで、めまぐるしいスピードで変化していると感じました。インドについても、今後、注視していきたいと思いました。

文:日中経済交流研究会 広報委員会
オーツケミカル(株) 合田 研吾